

京都シアワセ運ぶ情報誌の福祉

559
2017年
1月

Contents

- 京都府社会福祉協議会会長 年頭挨拶
京都府知事 年頭挨拶
 - 人材確保・育成・定着を支える
キャリアアップ研修
- 夢中! 熱中! ふくしびと

笑顔の写真館

桜の花見
地域行事に参加

♪だるまさんが笑った

ちゅー!

うまげだあなあ

おろそいで、
はい、ポーズ

釣ったどー!!

癒しの笑顔

ひまわり畑に囲まれて...

誕生日!
皆さんありがとうございます!

教えてください

笑顔の収穫

浜辺のへんすか

どっ?
似合うかしら??

節分・
巻き寿司づくり

どっちが勝つか

私のお祭り女

私たち、母娘
みたくでしょ!!

おいらんさん
獲れたよ!!

輝くふたり

今日は私の誕生日
ハイ・ポーズ!

やったね!

ボランティアと
ハイ!! チーズ

新年あけま
しとおめでと

うございませう▼昨年の福祉界の動きを振り返ると、様々なことがあった一年だと改めて感じる。改正社会福祉法の一部施行や本格施行に向けた準備、流行語大賞トップテン入りもした保育園の待機児童問題、相次いで起きた地震・大雨等による災害とその支援、介護現場への外国人参入の拡大につながる法の成立など▼背景には時代の移り変わりとともに社会の有り様が変わってきたことがあるのだらう。高齢者が増える中で老老介護の問題、貧富の格差の広がり、自己責任論の台頭...▼私の好きな歌の一節に「弱い者達が夕暮れさらに弱い者をたたく(The Blue Hearts/Train)」というくだりがある。ゆとりのない社会の中で苦しみやしんどさを抱え、力を合わせてより良い社会へと変革するまでの気持ちを高められず、追いつめられた苦しみが自分より弱い者への牙となつて向かっていく▼本当は誰もそんな社会を望んではいないはず。平和と自由と自分らしく生きられる社会の実現のために私たち福祉従事者が一番大切にしないといけないことは何か。自問自答しながらの一年がまた始まる。先ほどの歌は「本当の声を聞かせて」と続いている。本当の声が聴ける人でありたいと思う▼本年が皆様にとってよき一年となることをお祈り申し上げます。

(N)



「つながりをおして、だれもが尊厳をもって 生きることが出来る京都」の実現をめざして

社会福祉法人 京都府社会福祉協議会 会長 位高 光司

新年あけましておめでとうございます。

昨年は「つながりをおして、だれもが尊厳をもって生きることが出来る京都」の実現をめざし、京都府内の各市町村社会福祉協議会や民生委員・児童委員の皆様、社会福祉施設や関係団体の皆様とともに、地域の絆づくりや福祉人材の確保、育成を支援する事業などを進めてまいりました。こうした活動を展開できますのは、京都府をはじめ関係各位の温かい御理解と御支援の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、「ニッポン一億総活躍プラン」が昨年6月に閣議決定され、子ども・高齢者・障害者などすべての人々が、地域・暮らし・生きがいとともに創り、高めあうことができる「地域共生社会の実現」が盛り込まれました。そして、その具体

化のために「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部が設置され、今後の介護保険法改正、介護・障害福祉の報酬改定、生活困窮者自立支援制度の見直しに向けた検討が進められようとしています。

また、今年4月からの改正社会福祉法の本格施行に向け、社会福祉法人としての経営の透明化や情報開示、地域貢献などにも着実に取り組んでいかなければなりません。

私たち福祉関係者はこうした状況に向き合いながら、複雑な福祉課題を抱える人たちの暮らしを横断的に支える地域福祉の実践と、そのために必要な提言を行うなど、社会福祉・社会保障の増進に向けていっそう努力することが求められます。

こうした中、京都府社会福祉協議会におきましては、生活困窮や社会的に孤立

状況にある方々の自立を支援するため、生活福祉資金貸付事業や地域福祉権利擁護事業を通じた相談支援活動、幅広い地域福祉のネットワークである「絆ネット」の構築や京都府社会福祉法人経営者協議会との協働による社会貢献活動「わっかプロジェクト」の推進などの取り組みを行っています。

また、介護・福祉職場の人材不足に対応するため、福祉人材マッチング支援事業を中心とした人材確保・定着・育成にかかる総合的な取り組みに引き続き力を入れてまいります。

結びに、新しい年も昨年同様、私も京都府社会福祉協議会の活動に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の御健勝と御多幸を心からお祈りいたします。



共生社会の実現に向けて

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返って

昨年は、地方創生の動きが本格化する

中、オール京都の取り組みで文化庁の京都への全面的移転が決定するとともに、京都丹波高原国定公園の誕生と「京都モデルフォレスト運動」の10周年を祝い、森の京都博の中核イベントとして第40回全国育樹祭を実施するなど、京都の地域力を生かした取り組みを積極的に展開することができました。また、京都を縦貫する自動車道が京丹後市まで開通し、観光客も過去最高の賑わいを記録する中、舞鶴港にも多くのクルーズ船が来港するなど、観光の面でも充実した一年になりました。改めて関係の皆さまにお礼を申し上げます。

しかし一方では、熊本地震や鳥取県中部地震など災害が相次ぐとともに、平成27年の国勢調査の結果からも、少子高齢化や東京一極集中の進行が改めて確認されました。また、北陸新幹線のルート選定過程でもクローズアップされた地域間格差の問題や、増加する非正規雇用の問題、子どもの貧困問題など、社会構造の変化から生じる問題も深刻化しつつあります。

さらに、国際情勢を見ても、保護主義的な思想の台頭が顕著になるなど、様々な観点から二極化が進んでおり、その中で争いの種が芽を出し始めていることに危惧を覚えています。また、昨年、神奈川県相模原市の障害者施設で起きた痛ましい事件は衝撃的でしたが、他者に対する尊重の念を忘れた事件も増加してきているような気がするのには私だけでしょうか。

共生こそ京都の文化

今年京都府は、地域創生戦略に基づき、「文化創生」により京都の価値を発信してまいります。私は、この京都の

「文化」の中にこそ、こうした時代に立ち向かう大きな答えがあると信じています。

京都は長い歴史に彩られた地域です。丹後王国として栄えた北部、平城京から蒸仁京や長岡京など、遷都を繰り返しながら平安京に至った南部、豊かな森の恵みで都を支えた中部。それぞれの地域が個性を生かし、互いを支え合って京都をつくっています。近年、環境問題や少子高齢化など持続可能性が問題になります。まさに京都の文化は持続可能な文化と言えます。

もともと平安京という都自体、唐の都長安を模したものでありますが、外国から輸入した文化を日本独特の文化へと育むことにより、千年の都として「歴史と共生」を果たしてまいりました。さらに、千年の間、都であり続けたという持続可能性を支えたのが、京都議定書の精神に代表される「環境との共生」です。また、仏教各宗派の本山が多く存在するとともに、日本で最初のキリスト教主義の大学が京都で開学されるなど、多様な思想が共生する京都には、伝統産業から先端産業まで幅広い産業が共生し、さらには、47の大学が個性を持ちながら共生しています。

そして、門掃きや打ち水などに見られるように、人々が隣人に対する思いやりを持って接する京都の文化は、まさに、「共生の文化」といふべきものだと思います。

海と人、森と人、お茶と人と、京都府は新しい共生の道を探ってきました。また、学研都市では、文化と学術の共生が花開こうとしています。この共生という文化こそ、京都が今世界に問わなければならない文化ではないでしょうか。

若者も高齢者も、女性も男性も、障害者も健常者も、ともに支え合って、お互いの個性を尊重することができてこそ、はじめて持続可能な社会が成立し、将来に向けて共に発展する可能性が生まれるのではないのでしょうか。

そが、京都に生きる私たちが次の世代に託すべきものではないでしょうか。

「もうひとつの京都」

「もうひとつの京都」では、「海」「森」に続き、いよいよ「お茶の京都」の年を迎えます。舞台となる山城地域は「日本茶のふるさと」として、古くからお茶の文化を支え、育んできた地域です。家族団らんの象徴であり、一期一会の文化の源であるお茶、そしてそれを支える山城の景観。ここにも「共生の文化」が息づいています。「Discover Premium Green」のコンセプトのもと、「お茶の京都博」で世界に京都文化を発信する年にしたいと思えます。

そして、「もうひとつの京都」セカンドステージを牽引する各地域のDMOのもと、地域やその地に暮らす人々の結びつきを生かし、共に支え合って生きていく「共生の観光を育んでいきたい」と思っています。

共生社会の実現へ

こうして本年、京都府は、子育てや医療、産業、労働、環境、観光などあらゆる分野で、「共生」をキーワードとして、府民の皆さまの生活に寄り添った施策を進めてまいりたいと考えております。「交流」と「文化」から生み出される「京都力」を存分に発揮し、京都から世界へ、100年後、200年後の未来へとつながっていく新たな「共生社会」の実現に向け、共に歩んでまいります。

この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

福祉事業を始めるなら
賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応

詳しい補償内容はこちらまで
福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **SRM** 株式会社 エスアールエム

専用TEL **075-822-8613**
福祉の保険
ホームページ **www.srm-net.co.jp/smile/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社
この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

平成28年度 人権擁護啓発ポスターコンクール

京都府社会福祉協議会会長賞が決定しました!

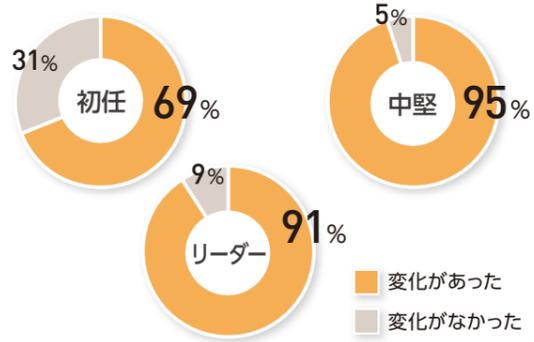
人権擁護啓発ポスターコンクールは、府内の小・中・高等学校の児童・生徒が、人権をテーマとしたポスター(絵画)の制作を通じて基本的人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から実施されています。

今年度は小・中・高の中から188校5,231点の応募がありました。その中から京都府社会福祉協議会会長賞として、京都市立久我の杜小学校1年「湯浅 太貴(ゆあさ たいき)」さんの作品が選ばれました。作品は京都府ホームページでご覧になることができます。

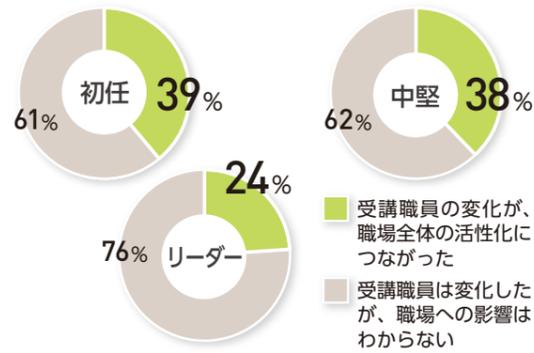
キャリアアップ研修 アフターアンケート結果

(平成27年受講者対象：平成28年7月実施)

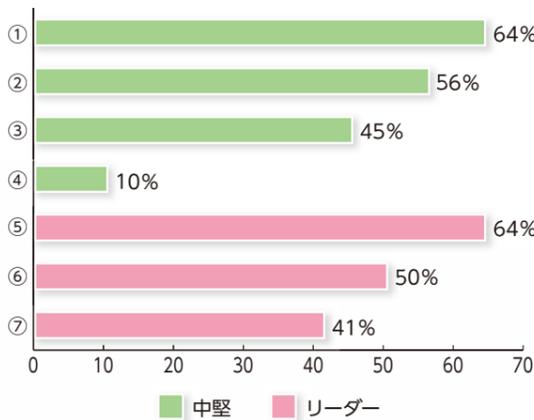
Q1. 受講職員の意識・行動の変化について
(回答があった事業所の内)



Q2. 職場への影響は？



Q3. どのような変化？ (複数回答)



- ① 仕事に対する責任感がうまれた
- ② 職員同士のコミュニケーションを積極的に行っている
- ③ 後輩の育成や問題解決に積極的に取り組んでいる
- ④ その他の変化が見られた
- ⑤ 後輩や上司とのコミュニケーションを積極的に行っている
- ⑥ リーダーシップを発揮し、職場の問題解決に積極的に取り組んでいる
- ⑦ リーダーとしての責任感がうまれた



本日は3日目の最終日。テーマは「なりたい自分をイメージして自分自身を描いていく」

具体的には「仕事に対する責任感がうまれた」「コミュニケーションを積極的に行っている」「自分の行動や発言に自信がついた」「気づく力の向上」「問題解決に積極的に取り組む」など仕事に意欲的な姿勢へと変化しています。

さらに、受講者の変化による職場への影響について、「初任」「中堅」の約4割の施設で「職場全体の活性化につながった」と回答しています。「主体的発言により、会議が活発な意見交換の場になった」「コミュニケーションが円滑になり、雰囲気良くなった。ミスが減った」「リーダーシップを発揮して、新任職員を支える集団に変化した」など研修受講による個人の変化が、職場環境の改善へと波及している様子が窺えます。

人材定着は、長期キャリアによる個人のスキル向上だけでなく、新人職員の近未来のモデル像となり得ます。また、職員が自身の仕事に誇りを持ち職場への愛着を高めていくことが働きやすい職場づくりと、利用者の人権を守るなど、職場の環境改善につながります。

本会では人材が育成・定着する好循環の職場づくりのために、キャリアアップ研修を活用いただけるよう事業所の皆様と共に引き続き努力していきます。

愛着を持って働き続けられる職場づくりのために



人材確保・育成・定着を支える キャリアアップ研修

「知識を行動に変える」 キャリアアップ研修

少子高齢化により急速に拡大する介護・福祉職場では、人材の不足が課題となっています。この課題への対応として人材の確保に加えて定着が重要です。京都府では人材確保や定着に取り組む事業所を「きょうと福祉人材育成認証制度」で認証し、事業所、大学、研修機関が一丸となって「京都の福祉人材を育てる」ことをコンセプトに事業を進めています。

受講後 8割の受講者に変化

全国社会福祉協議会は、「福祉職員キャリアアップ対応生涯研修」として福祉職員・事業所が主体的にキャリアパスを整備できるような次の2つの目的で全国共通の仕組みをつくりました。①福祉職員が自らのキャリアアップの道筋を描くことができ、それぞれのキャリアパスの段階に応じて共通に求められる能力の向上を段階的・体系的に習得することを支援、②各法人・事業所が主体的に職員のキャリアパスを構築し、これに沿った職員育成施策を確立・実施できることを支援する、というものです。

本会では平成25年に全国社会福祉協議会のカリキュラムの導入にあたって、各分野を横断する視点を養うための情勢を学ぶ講義に加え、「知識を行動へ」変化を促すようグループ演習を中心とした京都府独自の内容で研修を実施しています。

介護労働安定センターの平成27年度「介護労働実態調査」によれば介護職を選んだ理由の1位は「働きがいのある仕事だと思ったから」(52・2%)、一方、離職理由のトップは「職場の人間関係の問題」(25・4%)となっています。

介護・福祉の専門知識を活かした利用者への対応では、やりがいは感じるものの、職場を支える経営者や指導者の不足により離職に至るケースが多く、研修による階層的な人材の育成が急務となっています。

平成28年7月に行った本会実施の調査では、キャリアアップ研修受講が職場環境の改善の一助となっているとの結果が出ています。

研修受講者の所属する施設230件にアンケートを行ったところ、初任では69%、中堅では95%、リーダーでは91%が受講者に変化があったとの回答でした。

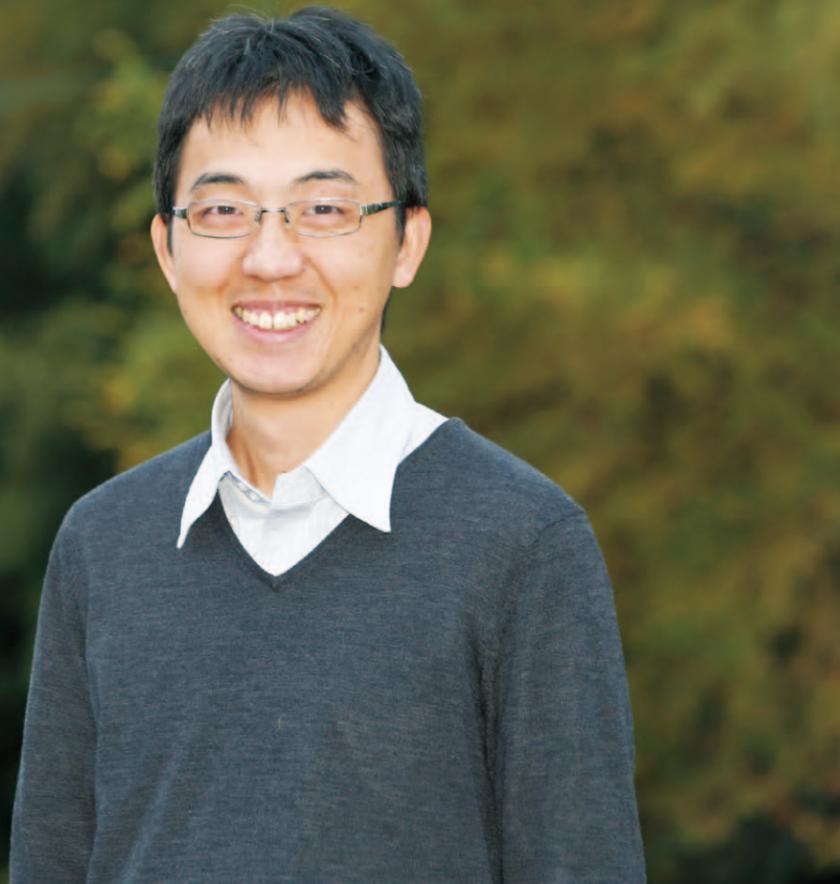
京都府社会福祉協議会(以下「本会」と略)のキャリアアップ研修は認証制度のメニューの1つです。この研修の受講者が所属する施設から「受講した職員に前向きな変化が起こっている」とのアンケート結果がでています。人材の定着育成に役立つキャリアアップ研修の内容をご紹介します。

夢中! 熱中! ふくしびと

だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い思い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元氣や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。

荻野 直也さん おぎの なおや
施設名 にれの木園デイサービスセンター
 〒620-0000
 京都府福知山市天田大塚14-2
HP/URL : http://www.skymind.jp
TEL 0773-24-0189 **FAX** 0773-24-1016
職種 : 生活相談員 **経験年数** : 14年
 ★好きな言葉 : Don't think, feel 考えるな、感じる(ブルースリーの名言です)
 ★夢中になっている事 :
 エレキギター、アスレチックめぐり



“笑顔が一番”利用者が来所すると元気になるデイサービスに

★**仕事を始めたきっかけは?**
 小学生時代、地元の特養のクリスマス会に参加し、働いている皆さんが楽しそうにされていたのが印象に残っており、大学進学を機に自分の将来、人生を考えた時にその事が頭に浮かんできて、福祉の道を選びました。大学時代には社会保障や児童の関わりなど色々勉強しましたが、やはり一番しっくりきたのが高齢者の分野でした。

★**仕事の内容とやりがいは?**
 以前は介護の現場で仕事をしていましたが、現在は相談員業務を行っています。相談員業務では、利用者が来られる利用予定を管理したり、利用者、家族の相談に乗ったりするのが主な業務ですが、デイサービスの送迎に行ったり、利用者と一緒に体操をしたりしています。管理する事務作業は苦手で、時々早とちりでミスもしていますが、各スタッフに支えてもらいながらなんとかこなしています。

★**自分が仕事でやりがいを感ずる点、利用者との交流を通して自分も元気になるという部分だと思いませんか。最近報道等ではネガティブな面ばかりが伝えられていますが、この仕事はやはり笑顔が大切です。介護する側が笑顔だと受けるほうも自然と笑顔になれると思っています。笑顔が自然と出**



てくる関係性を築けるように利用者とも対応したいと思っています。

★**休日の過ごし方は?**
 映画を見るのが好きなので、よくDVDを見ています。休日は子供と公園に行ったり買い物に行ったりするのが楽しいです。最近色んな公園のアスレチックに行くのにハマっています。

★**今後の目標(抱負)は?**
 自分はどうなに忙しくても人の話を大事に聞くということを大切にしています。定例の会議やミーティングなどで、その点は今後も継続していきたいです。

共同募金運動創設70年 よりよい地域づくりのために 社会福祉法人 京都府共同募金会



「おかげさまで、70周年」(記念動画)
<https://youtu.be/K0ImBuoNCJA>

創設70年を迎えた共同募金

赤い羽根共同募金は、民間の運動として終戦直後の1947年に(昭和22年)に市民が主体の取組としてスタートしました。当初は戦後復興の一助として福祉施設を中心に資金支援する活動として機能し、その後、「社会福祉事業法(平成12年社会福祉法に改正)」に定められた「地域福祉の推進」を目的に、共同募金は民間の社会福祉事業の推進のために活用されてきました。そして70年を経て、社会情勢が大きく変化中、高齢者や児童、母子、障がい者など、様々な多様化する地域の福祉課題の解決に取組む民間団体を支援する仕組みとして、市民のやさしさや思いやりを届ける市民主体の共同募金運動を進めています。また、本年から、全国一斉に募金期間が拡大され3月31日までとなり、寄付の多様化に対応した、新しい募金手法等によって共同募金運動の活性化を図ってまいります。

次代を担う新しい世代へ

「初音ミク」や「妖怪ウォッチ」とのコラボ企画(バッジやクリアファイル等)やプロスポーツ「京都サンガF.C.」「京都ハンナリーズ」の協力による広報活動に取り組んでいます。特に若い世代の皆さんに共同募金に興味・関心を持っていただき、積極的に共同募金運動へ参加いただくことを目的としています。



募金百貨店プロジェクト～企業との協働～

企業や福祉事業所等による寄付つき商品企画「募金百貨店プロジェクト」では、買い物に寄付につながる「三方よし」の仕組みが市町村で広がっています。金融機関による協力や寄付つき自動販売機等、共同募金が、企業の社会貢献活動と「地域」をつないでいきます。



◀ JAバンク京都のご協力による寄付つき金融商品「赤い羽根定期積金」



寄付つき自動販売機の設置を促進しています。



◀「天然酵母パン グリム」亀岡市 寄付つき商品企画「募金百貨店プロジェクト」が市町村で広がっています。

テーマ型募金 ～地域の課題解決を目指して～

募金の拡大期間を利用して、従来とは別の募金方法で、地域課題(テーマ)を見える化し、支援活動に共感していただく方を増やしています。



◀◀ひとり親家庭居場所支援「竹の子育て」長岡京市



平成28年度(第70回)共同募金運動
平成28年10月1日から平成29年3月31日まで

みなさまのご協力をよろしく願いたします。

京都府社会福祉協議会 からのお知らせ

寄付

ご寄付ありがとうございます

平成28年11月29日(火)に関西遊技機商業協同組合様より車イス7台をご寄贈いただきました。車いすは京都市内を含む京都府内の各社会福祉協議会で活用させていただきます。ありがとうございました。

ご寄付ありがとうございます

平成28年11月30日(水)に公益財団法人京遊連社会福祉基金様より500,000円のご寄付をいただきました。ご芳志の趣旨に沿って活用させていただきます。ありがとうございました。

ご寄付ありがとうございます

平成28年12月2日(金)に自由同和会京都府本部様より100,000円のご寄付をいただきました。ご芳志の趣旨に沿って活用させていただきます。ありがとうございました。

案内

就職面接会を開催します

保育園 就職面接会

- 日時 1月30日(月) 13:00~16:00
- 会場 ハートピア京都
(地下鉄「丸太町」駅下車)

介護・福祉職場 就職面接会

- 日時 2月8日(水) 14:00~17:30
- 会場 ハートピア京都
(地下鉄「丸太町」駅下車)

介護職への就労、復職をサポート!

福祉資格者就業サポート研修

- 日時および会場
1月24日(火) 10:00~16:00
25日(水) 10:00~16:30
文化パルク城陽
(近鉄「寺田」駅から徒歩10分)
- 2月22日(水) 10:00~16:00
23日(木) 10:00~16:30
ハートピア京都
(地下鉄「丸太町」駅下車)

就活スタート!

福祉職場就職フェアを開催します

- 日時 3月3日(金) 12:00~17:00
- 会場 メルパルク京都5F・6F (JR・地下鉄・近鉄「京都」駅下車)

【問い合わせ先】

京都府福祉人材・研修センター
福祉人材課
TEL.075-252-6297

「福祉サービス苦情解決事業 相談研修会」を開催します

- 日時 2月16日(木) 13:00~16:30
- 会場 キャンパスプラザ京都 第1講義室(5階)
- 対象 福祉サービス提供事業所の苦情解決責任者、受付担当者、第三者委員等
- 内容
①「苦情がない」ことは良いことなのか
講師：運営適正化委員会苦情解決合議体委員(宇治おうばく病院理事長) 三木 秀樹 氏
②シンポジウム「苦情対応から見えてくるこれからの福祉サービスの展望について」 高齢者施設、障害児施設からの事例に学ぶ
コーディネーター：運営適正化委員会苦情解決合議体委員(精神科医) 有賀 やよい 氏

【問い合わせ先】

京都府福祉サービス運営適正化委員会
TEL.075-252-2152

●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<http://www.kyoshakyo.or.jp>

京都府社協

検索



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

TOPICS

地域みんなで つながり ささえあう ～木津川市社協の取り組みから～

「どうされましたか?」「お困りのことはありませんか?」
地域生活の拠点であるイオン高の原(木津川市)で実施された「見守り及び声かけ訓練」の一コマ。

今回の木津川市で行われた訓練では、認知症の方が買い物に出かけて行方不明になったという想定で、イオンモール内を歩かれる本人役の方への声かけが行われました。参加者は、事前に学んだ認知症の方への接し方をふまえながら、本人役の方を発見し、声をかけます。



訓練の後の振り返りでは、「実際はどう声をかければよいか」「すぐ警察へ連絡するのはハードルが高い」との参加者の声に、従業員から「店内であれば、私たちに声をかけてもらったらいいですよ」とのやりとりの場面もありました。

住民や事業者が共通の話題で互いが“できること”を話し合うことは、今後、いざというとき、協力しつながり合うきっかけになります。普段のお客さんと店員の関係を超えて、地域をとともに考える関係づくりの一步になったようです。

京都府社協でも住民・事業者・関係機関等の幅広い協働による課題への早期の気づきと解決の仕組み“絆ネット”の取り組みを進めています。今回の木津川市の取り組みのように住民、地元の生活関連事業者、警察、消防、社協・行政等とのつながりで重層的に見守る仕組みのように“いつも”の見守りから気づきの力を高め、地域みんなで支え合うつながりづくりの機会を推進していきます。

●イオン高の原店 田中和美ゼネラルマネージャー

イオンモールのある兜台地域の熱心さ、盛り上がりもあり、地域住民・社協・行政等と連携し訓練の場所を提供することになりました。実際、参加してみても店としてできることについての気づきもありました。地域に根差した拠点として、今後も地域と協働した取り組みを進めていきたいと考えています。

●木津川市社会福祉協議会 兜台区支部 田中良典支部長

街びらき30年を経過した私たちの街は、今後高齢化が一気に進むことが予想されており支部では地域の交流をはかり見守り活動の拡大を呼びかけています。訓練で得たことを今後の活動に活かしてまいります。